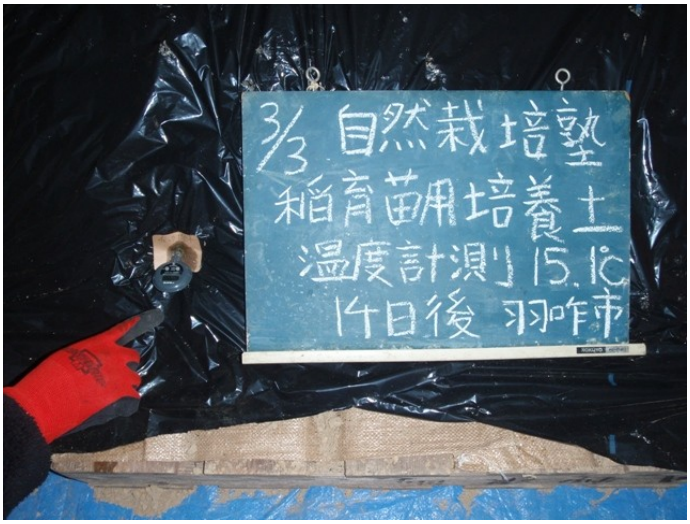
木村秋則　自然栽培実践塾　実践レポート　ＮＯ．６

ＮＯ．６　稲育苗用培養土の温度計測　１４日目

３月３日、稲育苗培養土の温度を計測してきました。土を作成してから１４日経ちました。温度の経過をレポートします。



１５．１℃しかありません。やはりこの地点は、これ以上温度があがらないのでしょうか？計測ポイント貼ってあるシールを見てみますと、水が漏れています。シートの中をのぞいてみますと・・

微生物がいっぱいです。２週間経つとこれだけの変化が起こるのですね。めくったビニールの表面は水でビッシリで、土の表面も水気が非常にあります。

黒いあたりが計測ポイントです。よく見ると、山の上のほうにも白い場所が所々あります。一番頂上は土しか置いてないですし、下からやってきたものでしょうか？興味深い変化です。

アップにすると少し見えるでしょうか？小さな植物の芽が、山の上の方にもやしのように生えています。生命力の凄さを感じると共に、種は土の中にあっても、条件が整ってはじめて出てくるものだと判ります。

高い温度のポイントはどこか？探ってみました。今現在は、一番上の土と米ぬかの接点付近のようです。やはり土と米ぬかの接点付近なのは間違いないようですが、２段目の土と米ぬかの接点が一番高いと思っていたので、ちょっと意外でした。水がシート表面にビッシリついていることから、水分が移動したとも考えられますが、これに気がつくのが少し遅かったので、正確に計測し、捉える機会を逃してしまいました。

　中身を割ってみました。中の土を触ってみると、水分が減っているように感じます。微生物は反応するのに水分を使うという事なので、おそらく反応に使ってしまったのでしょう。

　熱は３３度と下降傾向にあります。原因はいくつか考えられますが、予想では「土の体積が小さすぎたので、周りに熱を奪われすぎている」「土の中の水分が少なくなり、反応が止まってしまった」などが思われます。

　うまくいけば７０度以上いく事は確かなので、切り返して、表面を保温するなどして対処してみようかと考えています。